

令和6年度 第2回駒ヶ根市地域公共交通協議会 会議録

【日 時】 令和6年11月15日（金）午後3時～4時

【場 所】 駒ヶ根市役所 本庁舎 3階 第5会議室

【出席委員】 21名

1 開 会

2 会長あいさつ

- 年度内の公共ライドシェアシステム実証実験を目指して準備を進めている。11月14日に開催したドライバー説明会には16名の方が参加した。皆さんと協力して進めていきたい。
- 公共交通アンケートは、地域公共交通計画の中間票を及び次期計画の基礎データとなる重要なものである。取りまとめている途中であるが、駒ヶ根市の現状を皆さんと共有したい。
- 山麓周遊バスの実証実験についても、7月1日から1日6便で運行している。10月には養命酒工場がグランドリニューアルをしたので、山麓周遊バスの需要が高まることを期待しているところ。

3 協議事項

(1) 令和6年度公共ライドシェアシステム実証実験の事業概要について

資料1-1

資料1-2

資料1-3

(資料1-3は個人情報が含まれるため非公開とする。)

下平委員から質問

- ・ 運送事業者の本音を伺いたい。

⇒ (事務局より回答)

- ・ 現在までタクシー事業者2社とは、4～5回協議を重ねており、理解頂いている。

⇒ (伊南乗用自動車 久保田専務回答)

- ・ 運行の区域、料金、時間把握している。タクシー事業を圧迫しないと聞いているので協力したい。

⇒ (赤穂タクシー 坂元社長)

- ・ タクシー不足は感じていない。全国的にライドシェアの動きが広まりつつあるが、そこに頼っていくつもりはない。運転手も増やしているところではあるが、市から依頼があったので今回は協力したい。

- ・運賃の2割が協議会に入るのは、営利団体ではないので、いかななものか。実費に収まる範囲にして頂きたい。

⇒（事務局より回答）

- ・営利を求めるものではなく、保険料等実費の部分に充てていく。

村瀬委員より意見

- ・観光客に対して、タクシー会社と同レベルのサービスでないとトラブルになるのではないかと。しっかりした顧客対応を提供できる体制をお願いしたい。

⇒（事務局より回答）

- ・実証実験の中で検証しながら進めていきたい。

肥野委員より質問

- ・ドライバー説明会の参加者からは、どのような質問が出ているか。

⇒（事務局より回答）

- ・トラブル対応やキャンセル時の対応の部分が多く挙がっている。今後の講習会で課題をクリアしていきたい。

野溝委員より質問

- ・タクシーとサービスレベルが異なるのに、同額の料金はいかななものか。市内でも距離がある場所があるので、金額面でも支援があると利用しやすい。

⇒（事務局より回答）

- ・ライドシェアの概念として「タクシー優先配車」「タクシーの補完」があり、今回はタクシー料金と同額としている。料金支援については、別の施策での対応になると考える。

村瀬委員より意見

- ・検証後、ライドシェアありきではなく、事業者と協議を重ねて、事業を立ち上げていってほしい。

⇒（会長より回答）

- ・タクシー事業者あってこそその事業である。一緒に公共交通を作っていききたいという想いから始まったものである。今回検証して、不要という判断であればやらない。タクシー会社が発展する支援の手段の一つとして実施するものである。

県交通政策課より意見

- ・今回の登録は、3月1日までの期限で区域と時間を限定しての申請となる。それ以降は再度協議会での合意形成が必要となる。バス・タクシーを最優先とし、補完するものであることを念

頭に置いて進めてほしい。

⇒（会長より回答）

- ・バス・タクシーが最優先であることは、大前提である。支援としてライドシェアが有効か検証していきたい。

北陸信越運輸局より質問

- ・ほかのモビリティとの役割分担はどのようなになっているか。

⇒（事務局より回答）

- ・駒ヶ根市では、こまタクと山麓周遊バスが運行している。こまタクとは平日午前中に競合ということなるが、こまタクは時間制限があるので、利用者にとって使いやすいサービスはどのようなものなのかを含めて検証したい。

- ・冬季における観光客に対する広報は、主要駅に周知するなど工夫が必要になる。

⇒（事務局より回答）

- ・どのような広報が効果的であるか検証していきたい。

（ほか異議等なし） ⇒ （全員承認）

（2）令和6年度山麓周遊バス実証実験事業の中間報告について

資料8

運行事業者こまくさ観光株式会社岩本社長よりコメント

- ・昨年に引き続き観光客の利用が多いが、想定よりお子さんの利用が少ない。
- ・養命酒工場リニューアルオープン後、養命酒工場での乗降が増加した。
- ・各拠点に設置している山麓周遊バスのリーフレットの消費はとても早いですが、バスの利用者は増えない。
- ・公共交通利用の宿泊客の利用が多いと感じる。
- ・ドライバーに対しても、観光案内ができるように指導しているところ。

（ほか質問等なし）

（3）「日常の移動と公共交通に関するアンケート調査」の中間報告について

資料3

（質問等なし）

4 その他

5 閉 会